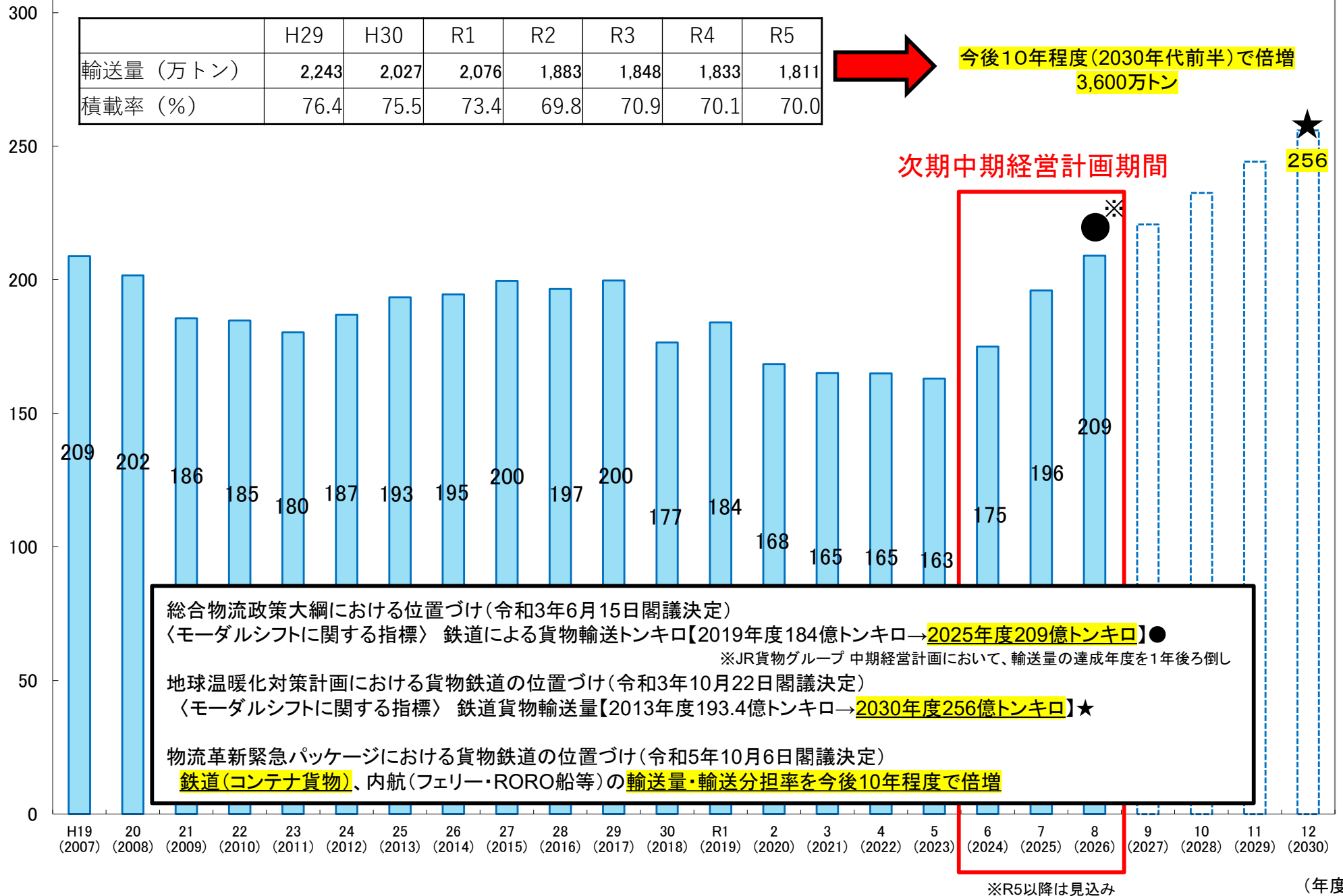


モーダルシフト倍増に向けた 鉄道局の取組状況について

令和6年7月31日
国土交通省鉄道局

JR貨物のコンテナ輸送量(トンキロ)等の推移と見込み

(億トンキロ)



物流革新に向けた政策パッケージ・物流革新緊急パッケージ

「物流革新に向けた政策パッケージ」においては、鉄道の輸送力増強等によるモーダルシフト、大型コンテナの導入促進、災害対応能力を含む物流拠点の機能強化等を推進することとしており、さらに、「物流革新緊急パッケージ」においては、鉄道の輸送量・輸送分担率を今後10年程度で倍増することとしている。これらを踏まえ、鉄道局においては下記の取り組みを実施している。

【物流革新緊急パッケージ(抜粋)】

○モーダルシフトの推進

- ・ 鉄道（コンテナ貨物）、内航（フェリー・RORO船等）の輸送量・輸送分担率を今後10年程度で倍増
- ・ 31ftコンテナの利用拡大を優先的に促進しつつ、中長期的に40ftコンテナの利用拡大も促進

トラックから鉄道へのモーダルシフトの促進

○大型で10tトラックからの積替えが容易な「31ftコンテナ」の取扱いを拡大し、輸送力を増強

- 輸送力の増強、積替え円滑化のための貨物駅の施設整備 【R5補正、R6当初予算】
- 大型コンテナ等の導入経費への支援 【R5補正予算】

<12ft → 31ft> 12ftコンテナ



<大型コンテナの取扱い拡大のためのコンテナホームの拡幅等>



狭い貨物駅

東海道線 静岡貨物駅、西浜松駅

災害対応能力の強化

○災害時に迅速かつ安定的に代行輸送を実施できる体制を確立し、災害対応能力を強化

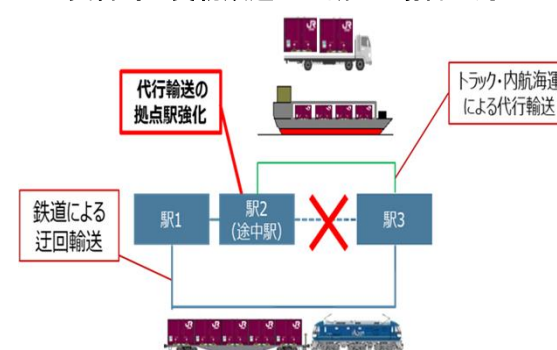
- 代行輸送の拠点となる貨物駅の施設整備 【R5補正、R6当初予算】
- J R 貨物、荷主、利用運送事業者、関係自治体、地方整備局等により、B C Pの策定に向けた協議の場を立ち上げ

<貨物駅の施設整備(支障移設等)>



山陽線 新南陽駅

<災害時に貨物鉄道が寸断した場合の対応>



J R 貨物の経営自立化に向けた経営基盤の強化

国鉄債務等処理法に基づき、設備投資（安全基盤の強化、輸送力増強、生産性向上等）に係る無利子貸付 【令和6～8年度:193億円】



輸送力増強に必要な機関車・荷役機器の導入



偏積防止対策の強化

○数値計画（目標値）

・2026年度目標値

（単体）鉄道事業営業利益 **10億円以上**（2023年度 ▲166億円） 経常利益 **90億円以上**（2023年度 ▲62億円）
 （連結）営業収益（売上高） **2,160億円以上**（2023年度 1,885億円） 経常利益 **110億円以上**（2023年度 ▲42億円）

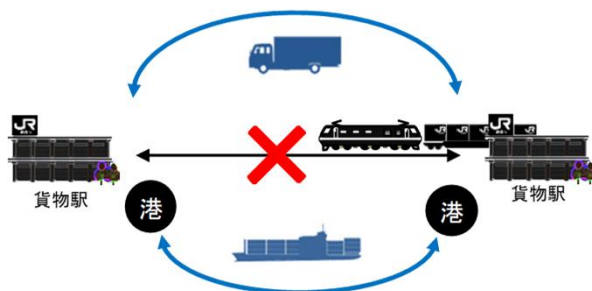
○具体的な施策

1.安全基盤の強化・安定輸送の追求による貨物鉄道輸送への信頼の回復

- ・行動の定着による安全基盤の強化（偏積防止対策等）
- ・災害時のトラック代行、船舶代行の迅速な立ち上げ
- ・山陽線不通時を想定したBCP対策の推進 等



トラックスケールの設置
（偏積防止対策）



大規模災害時の代行輸送体制



大型コンテナを取扱う荷役機器

2.既存アセットを最大限活用した輸送量の回復（鉄道事業黒字化）

- ・データ分析による戦略的営業活動の展開
- ・大型コンテナ取扱量の拡大
- ・中距離帯におけるネットワークを強化し、トラックからのモーダルシフトを推進
- ・総合物流企業グループへの進化 等



中距離帯におけるネットワーク強化

3.不動産事業の更なる拡大と展開

- ・レールゲート、賃貸マンションなどの開発
- ・既存物件の再開発等
- ・将来の収益化に向けた新規事業への挑戦
- ・取得物件の拡大と収益拡大のスピードアップ 等



レールゲート
（多目的倉庫）

4. 経営基盤の強化

- ・組織力・ガバナンスの強化
- ・人的投資と働きがい創出
- ・収支構造改革
（コスト削減と運賃改定） 等

5.更なる役割発揮に向けた体制強化

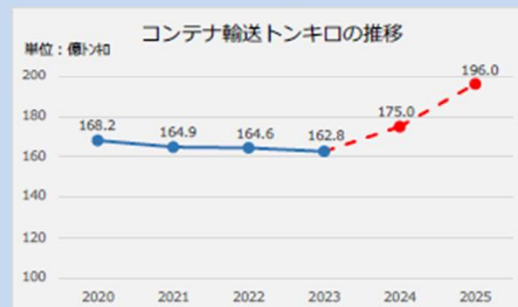
- ・脱炭素社会の実現に向けた取り組み
- ・海外事業展開
- ・DX・新技術の推進 等

KGI/KPI 主要項目の進捗状況の推移

KGI/KPIは2023年度より設定（青実線：実績値 赤破線：目標値）

KGI（重要目標達成指標）

コンテナ輸送トンキロ

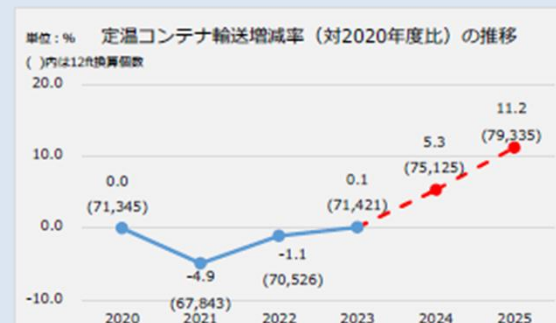


KPI（重要業績評価指標）

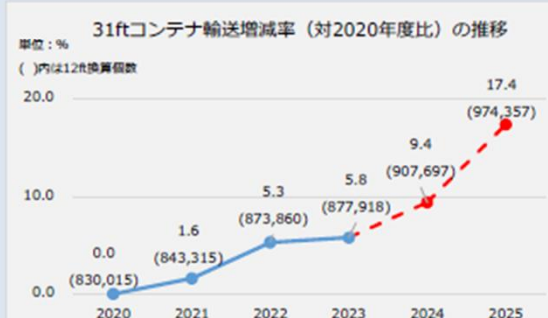
積載率



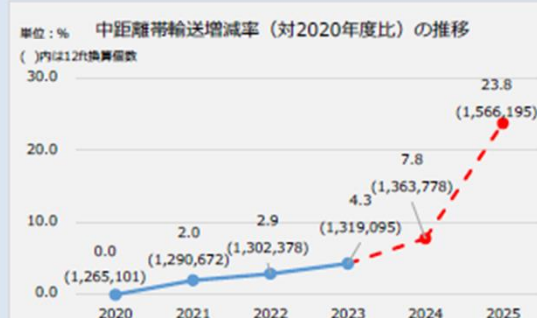
定温コンテナ輸送



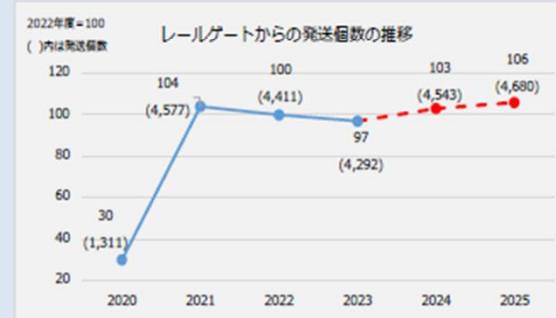
31ftコンテナ輸送



中距離帯輸送



レールゲートからの発送



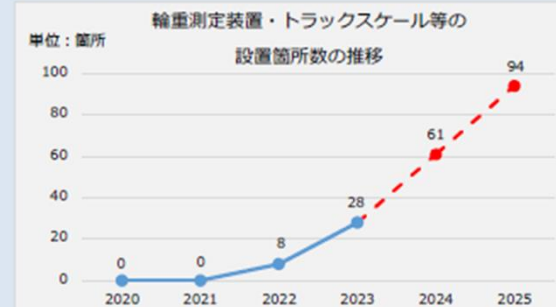
積替ステーションの設置



パレットデポの設置



輪重測定装置・トラックスケール等の整備



News Release



2024年7月10日

輸送動向について（2024年度第1-四半期）

1. 輸送概況

円安の進行や原材料費高騰等に伴う商品価格の上昇により、個人消費が伸び悩み景気は力強さを欠いた一方、食料工業品や積合せ貨物を中心に2024年問題を背景とした鉄道シフトの動きが進み、輸送実績合計では、前年を上回った。

コンテナは、食料工業品が、気温上昇等に伴う需要増加、一部顧客における鉄道シフトの取組み等により清涼飲料水を中心に好調な荷動きとなり、前年を上回った。紙・パルプは、ペーパーレス化の進展に伴う紙の需要減が続く中、一部顧客における鉄道シフトや定期修繕前後の出荷が堅調に推移したほか、積合せ貨物は、2024年問題への取組みが進捗する中、鉄道へのシフトが進んだことにより増送となった。コンテナ全体では前年比102.1%となった。

車扱は、石油が、外出需要の増加等によりガソリン及び軽油が前年を上回った一方、セメントは、顧客における定期修繕計画の変更に伴う影響により、前年実績を下回った。車扱全体では前年比96.1%となった。

コンテナ・車扱の合計では、前年比100.3%となった。

2. 輸送実績

種別 扱別	1－四半期計		
	本年実績	前年実績	前年比
コンテナ	4,506	4,415	102.1%
車 扱	1,771	1,843	96.1%
合 計	6,278	6,259	100.3%

3. 品目別輸送実績表

(単位:千トン、%)					
扱 別	品 目	本年実績	前年実績	増減	前年比
コンテナ	農産品・青果物	292	283	9	103.3%
	化学工業品	393	385	8	102.1%
	化学薬品	270	277	-6	97.5%
	食料工業品	798	744	54	107.3%
	紙・パルプ	505	481	23	105.0%
	他工業品	287	306	-18	94.0%
	積合せ貨物	808	796	12	101.5%
	自動車部品	177	171	5	103.4%
	家電・情報機器	97	86	10	111.8%
	エコ関連物資	90	103	-12	87.6%
	その他	783	778	5	100.7%
車 扱	コンテナ計	4,506	4,415	91	102.1%
	石油	1,228	1,198	30	102.5%
	セメント・石灰石	275	357	-81	77.1%
	車 両	171	176	-5	97.2%
	その他	96	111	-15	86.3%
車 扱 計		1,771	1,843	-71	96.1%
合 計		6,278	6,259	19	100.3%

(車扱の品目別輸送量は社線発送トン数も含む数値、本年は速報値、前年は確報値)